

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 厚岸町立太田小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒088-1144  
北海道厚岸郡厚岸町太田4の通り32-1  
E-mail s-oota@town.akkeshi.hokkaido.jp  
Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 13 名 女子 11 名 合計 24 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自ら学び、協力して学ぶ子どもの育成」を学校理念として、ESD を課題解決の活動と捉え、ESD の実践を通して主体的に参加し、目標を持って意欲的に取り組むことを目標とした。

具体的には、総合的な学習の時間や理科・社会・生活科の授業において、環境・地域学習・食育を柱に、①地域に係わる活動、②歴史に係わる教育、③産業に係わる学習、④環境に係わる学習を行った。

### ① 地域学習に係わる活動

地域と関わり合いながら自己解決能力を育てる総合的な学習の活動を行った。中学年は、浄水場の学習、厚岸町の捕鯨の歴史学習、太田地区の屯田兵の歴史学習などを通じて、課題を持って追究し、進んで人と関わり、自己の生き方のかんがえる力を育てる。

高学年は、厚岸の牡蠣について学習し、歴史や仕組み・生産者の思いなどを学

習。自然環境全体が牡蠣の生産に大きく関わっている事を学習する。北方領土学習では、元島民の方の話聞く。課題を追究し、コミュニケーション能力を高め、自己の人間力向上や自己の進路についても意識を持たせる学習を行う。

低学年の生活科では、地域に出かけて「極みるくの学習」「酪農の仕事」「屯田兵の歴史」などを学習した。6年間を通じて地域を知り・地域と関わり・地域住民の思いを感じて愛着を持った中で学習を進めている。

### ③環境教育に係わる学習

本校は委員会活動で、節電・節水・ゴミの分別・校内環境整備を行っています。以前は「環境にやさしいせっけん作り」などを行っていましたが、今年度は「保護者の協力を得た雑巾作り」を行いました。清潔で綺麗な環境で学ぶ事を目指し、自分達でできることはないかを話し合い、保護者に布を提供していただき自分達で雑巾を縫う取り組みを行いました。

また、地域の特色を生かし、保護者や地域の方にご協力をいただき、学校園での栽培活動を総合的な学習の時間及び生活科等の時間で行っています。基本的には、各学級単位で栽培の計画を立て、9月の収穫時期まで栽培を続け、最後に調理等の活動でまとめています。今年度は、広い学校園やビニールハウスの耕作・整備に、保護者ばかりでなく地域老人クラブの方々のご協力もいただきました。一連の活動を通して、作物を作ることの大変さと喜びを感じ、食の大切さについて学びます。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー          | <input type="checkbox"/> 3. 防災                     | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動          | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性     | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産           | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和            |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉         | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困              |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク        | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク         | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) |  |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等      | <input type="checkbox"/> 17. その他( )        |  |  |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

|   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力                | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力   |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度    | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度                |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度    |  |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )              |  |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

|  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動                |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )       |  |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

|                     |
|---------------------|
| 厚岸町郷土読本<br>ウェブサイト 等 |
|---------------------|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は教育活動の中に、非常に多くの地域と関わる活動が取り入れられています。地域の自然や環境に目を向けたような活動を行っています。

地域の施設や人材を積極的に活用することによって、指導内容を豊かな活動にしている。

地域や保護者、行政の協力を得て、人材活用、地域素材の活用を意識し、工夫改善を行っている。

今後も更に発展させるためには、教師の教育を考える目線を変える必要がある。ESD の考えを学習し、教育課程を常に改善していく目を持つことだと思います。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間全体計画の作成や、環境教育全体計画、情報教育全体計画、食に関する指導の全体計画、人権教育の全体計画を整備し、全教員が計画的に取り組む体制を確立している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

それぞれの活動が児童に有効な活動となっているかを、教務部を中心に検証し、毎年計画を見直している。

本町には、環境や地域の産業、歴史などの学習環境が多くあり、育てたい力をしっかり考えて、有効活用できるように研修することが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校だより、学級通信、学校ホームページ等で発信することにより、保護者、地域からの理解が得られるようになった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

北海道教育大学釧路校や厚岸町環境推進委員会、太田農協と連携している。学校が望む指導内容に近い活動ができている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ホームページを通じて、国内外のユネスコスクール活動を教職員で共有し活動の参考にしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

学校の教育活動に地域や保護者が協力することにより、活動内容の充実のみならず、協力者の生きがいや充実感の向上になり、学校と地域の信頼関係が強まった。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

総合的な学習の時間の全体計画の見直しを行い、発達段階に応じた活動を昨年度並みに行う。小中9年間の連続性を意識した活動となるように、太田中学校との連携を強化する。

環境・地域・食育について、総合的な学習の時間、理科、社会、生活科の内容を工夫する。

地域人材、地域素材、行政機関の積極的な活用を通じて、地域と共にある学校を実現する。コミュニティースクールの活動を充実させる。